



ナタン：神の導きに耳を傾ける

Nathan: Listening to God's direction

The Christian Science Journal, vol 126 number 7

クリスチャン・サイエンス・ジャーナル より転載 第 126 巻 第 7 号

Alessandra Colombini / アレサンドラ・コロンビニ

巨大な権力を持つ王に向かって、「あなたは間違っている」などと、言わなければならないとき、どのように話したらよいのでしょうか。特にそれが、多くの戦いに勝利し、将軍たちからも、召使いたちからも、敬われ、慕われている王だったとしたら、どうでしょう。聖書のサムエル記下に登場する、預言者ナタンは、まさにそんな努めを果たしました。このナタンの話は、他の人にその罪を効果的に指摘できる唯一の方法は、神性の心に、意志の伝達を委ねることであることを教えてくれます。

ダビデ王は、部下である兵士の妻、バテシバを欲しました。王は、彼女を呼び寄せ、後に、彼女が自分の子を身ごもったことを知ると、彼女の夫、ウリヤが、殺されるように謀りました。王は、ウリヤを激しい戦いの最前線に送り、ウリヤは殺されてしまいました（サムエル下 11:15）。「しかし、ダビデがしたこの事は主を怒らせた」（サムエル下 11:27）と聖書に書かれています。ダビデに、彼自身のために、この罪をあがなわせるため、彼をその情欲と身勝手な催眠的な夢から、目覚めさせなければなりません。これを成し遂げるため、「主はナタンをダビデにつかわされた」（サムエル下 12:1）のです。しかし、ナタンにとって、これは危険

他の日本語記事については、次をご覧ください: <http://www.spirituality.com/christiansciencesakigake/index.jhtml>

© 2009 The Christian Science Publishing Society (CSPS). この記事は、50部までプリントアウトして、非営利として実費で提供することができます。この記事を手紙 (email) で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事を手紙に転載する許可を得るには、copyright@csp.com宛に、メールをお送りください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。

な使命でした。ダビデは、自らの正当化に凝り固まって、ナタンが、王は罪を犯した、そこでその罪をあがなわねばならないという、神のお告げを持っていったとしたら、王は激怒したかもしれません。王であるダビデに、そのような話をしたとあって、ナタンを殺していたかもしれません。

しかし、ナタンは「神につかわされて」いたので、どのようにしてこの使命を果たすことができるか、神である心に導きを求めました。彼は、まず、ダビデの罪について触れることを避け、ただ、ある金持ちの男の話をしたのです。その男は、たくさんの羊を持ちながら、一頭しかいない貧しい隣人の羊を盗んだのです。ダビデ王は、その話を聞いて、憤りました。その時のようすが、次のように記されています。「ダビデはその人の事を非常に怒ってナタンに言った、『主は生きておられる。この事をしたその人は死ぬべきである』... ナタンはダビデに言った、『あなたがその人です』」(サムエル下 12:5,7)。その瞬間、ダビデは自分の罪に気づき、それをとがめました。ナタンは、彼の使命を、個人的な感情を含めずに、しかも有効に果たしたのです。

ときに、私たち自身も、誰か、例えば、家族や友人、上司や、権威ある地位にある人を、催眠的な夢から、目覚めさせなくてはならない任務を負うことがあるかもしれません。私たちはとかく、自分自身の説得力、理屈、善悪の判断に、頼ってしまいがちではないでしょうか。そうしたのでは、成功する確率は低いことでしょう。そして、これは不可能な使命なのだと、感じてしまうのではないのでしょうか。

メリー・ベーカー・エディは、次のように書いています：「祝福された師イエスの精神があつてはじめて、人に彼の欠点を告げ、あえて人の不快を招いても、正しいことを行ない、人類に益をもたらすことができるのである」(『科学と健康』、p.571)。この「祝福された師イエスの

精神」、つまり**キリスト**の意識が、人間の論理や人間的な手段や方法を抑えて、**心**を優先させるのです。この意識に動かされて、まず**心**に耳を傾け、自分の個人的な利益、意見、判断、非難が、なくなっていることを確かめなければなりません。私たちも、ナタンのように「**主**につかわされた」のであることを、しっかり認めなければなりません。すると、私たちの考えは、神性の靈感を素直に受け入れ、何を言い、どうすればよいか、示されるのです。きっとそのつど、違ったことが示されることでしょう、**神**の理念は、それぞれ個別に現されるからです。

この準備に当てはまる必要なのは、すべての人は、平等に**神**である**心**の知性を活用できること、善を完全に識別できること、そして、善を喜んで受け入れる用意があることを、確信していることです。ナタンがダビデのもとに行ったとき、王は、神性の**心**の知恵から完全に離れていると、もしナタンが信じていたとしたら、どうなっていたか、想像してみてください。彼は、ダビデの心を動かすことはできなかったでしょう。

愛をもって、効果的に意志を伝えるなど、不可能な使命であると感じたとき、ナタンの例が、私たちに勇気づけてくれることでしょう。私たちの使命は、他の人々を教え導くことではなく、神性の**心**の光に、道を照らさせることなのです。

アレサンドラ・コロンビニ氏は、キリスト教科学実践士、また教師であり、ブラジル、サンパウロに住んでいる。